

若い世代のボランティア精神や思いやり

過日の台風19号やその後の大雨は、主に東日本から北日本に大きな被害の爪痕を残し、宮城県内の地域にも大きな被害をもたらしました。近年は、地震だけではなく、大雨や異常なまでの夏の気温の高さにも細心の注意が必要となりました。そのような中、連休中や土日の週休日に、ボランティアの方々が被災地に入って、様々な活動をしている事は、本当に頭が下がります。

阪神淡路大震災、そして東日本大震災等でも多くのボランティアの方々が活動したり、NPOの方々が機動力を発揮して、復興に貢献したりした事によって、行政だけではない民間レベルの共助の大切さが見直され、日本でもボランティア活動がそれ以後、根づきました。

仙台市内の中学校や長町中学校でも、東日本大震災時に、生徒達が避難所や地域で様々なボランティア活動を行い、中学生の役割の大切さもクローズアップされました。

今回の被災に関しても本校では被災地支援のための募金活動を行い、わずかな期間でしたが、なんと30,000円弱の募金がありました。生徒の皆さんの協力、保護者の皆様からのご支援に感謝申し上げます。長町中学校では、震災以後、様々なボランティア活動や地域貢献活動を意識的にを行い、また「ともにチーム長町プロジェクト」も多くの生徒の参加が参加し、活動が継続されてきました。今回の募金活動はそれらの活動の効果であればとても嬉しい事ですし、何よりすぐに募金してくれる行為がとても嬉しいです。若い世代、特に中学生や高校生のボランティア精神はとても貴重で素晴らしいものだと思います。

ボランティア精神とは異なるかもしれませんが、高校生のすばらしき行いを見て、感動したことがありましたので、ご紹介いたします。

8月に所用で青森に出かけた時の事でした。駅前にスクランブル交差点があり、何気なく渡っていました。そろそろ信号が変わりそうになった時に、お年寄りの方が、交差点を渡ろうとしている姿が見えました。結構長い距離があり、ちょっと渡りきるのは難しく、近くにいた方々は『危ない』と感じていたと思います。私もそう思いました。予想通り、途中で信号が変わってしまいました。そこにいた多くの方々がその様子を見ていました。交差点の中央付近で心配そうに様子を見ていた高校生3名がすぐにお年寄りに近づきました。男子2名、女子1名でした。この高校生3名は、様々な種目で部活動が盛んな、全国的にも有名な学校の生徒さんでした。Tシャツの背中に学校名が書かれていました。

そして車の列に向かって、3名で両手を広げて、『すみません。人が通ります。』と叫びました。その声ははっきりと私にも、他の人にも聞こえていました。高校生の手を借りてお年寄りはお年寄りか交差点を渡りきりました。高校生達は、車に向かってお辞儀を何度も繰り返していました。様子を見ていた方々から遠慮気味に拍手が起きました。きっとこの高校生達は、「こんな事をお年寄りにしてあげなさい。」とか、「こんなふうに接してあげなさい。」と教えられた事を実践したのではないと思います。きっと、とっさの行動だったと思います。教えられた事をその通りに実行したのではなく、自分達の「心」が行動になったのだと私は感じました。しかし、このような行動は、本校の生徒にも数多くあります。今年度は、数回、地域の方々から生徒の思いやりある行動に対する感謝のお電話をいただきました。募金活動であれ、ボランティア活動であれ、思いやりある「心」を「行動」にできる事はとても素敵な事だと思います。